

## レクリエーションの視点からみた地域テニス活動の現状と課題 ～千葉市テニス協会ベテラン委員会の事例を通して～

○ 境 広志（武蔵野短期大学）

キーワード： 地域、中高年、テニス、継続要因

### 1. 目的

2015年に65歳以上が総人口の25%を超えるであろうと予測される我が国において、高齢化社会に対する課題や問題点は様々な方面で検討されている。

一方、スポーツ活動は中高年の体力や健康を維持・増進することにより自立をうながし、さらにスポーツ活動の場は社会的なつながりを生み出すひとつの方法になると考えられる。

テニスは比較的高齢になっても続けられる生涯スポーツのひとつであるといわれる。しかし一方で長く続けていかなければ、期待される効果も発揮されないことになる。

そこで本研究では、活動歴の長いテニス愛好家を対象に、継続要因を明らかにすることを主たる目的とした調査研究を行なった。そして、中高年における生涯スポーツ普及の具現化を試みる千葉市テニス協会の活動について、その現状と課題について検討した。

### 2. 方法

調査対象：千葉市テニス協会ベテラン委員会メンバー（合計33名）

調査方法：質問紙による記入回答式（自由記述を含む）、回収率100%

調査期日：1999年9月16日

質問項目：1. (1)年齢 (2)性別 (3)はじめた年齢 (4)活動歴 (5)プレー日数 (6)大会出場数  
2. (1)はじめたきっかけ (2)テニスの魅力 (3)活動を続けている理由  
(4)活動を続けていく秘訣 (5)続けていてよかったと感じる時

分析方法：質問項目1については、すべての値から平均値を求めた。質問項目2については、自由記述により回答されたコメントを整理し、KJ法の手順にしたがってコメントを編成し、グループ化した。

### 3. 千葉市テニス協会ベテラン委員会について

千葉市テニス協会は、創立30年を迎えた97年3月に作成した長期ビジョンとして、「60歳以上の方がテニスを楽しめる環境づくり」を目的としたベテラン委員会を設立し、メンバーの募集を行なった。メンバーの条件は60歳以上の千葉市在住者である。99年9月現在のメンバー数は70名で、うち女性は12名である。活動は月に2～4回、主としてウイークデーに民間や公営のテニスコートを利用して行なっている。活動内容はダブルスのゲームが中心である。この試合成績は毎年行われる厚生省主催ねんりんピックにおける千葉市代表選手選考の際に参考とされる。

### 4. 結果及び考察

#### 1) 質問項目1について

調査対象者は合計33名、うち女性は4名であった。平均年齢は63.2歳。テニスをはじめた平均年齢は31.4歳で、最も早い者で11歳、遅い者で57歳であった。活動歴の平均は28年で、最も長い者で54年、短い者で4年であった。1週間の平均プレー

日数は3日で、年間に出場する平均大会数は3.6試合であった。

#### 2) はじめたきっかけについて

「テニスをはじめたきっかけを教えてください」という問いに対する回答として、「周囲の人(家族、友達等)に誘われて(36.4%)」が最も多く、次いで「学校のクラブ活動(12.1%)」、「楽しそうに見えた(12.1%)」等が挙げられた。

#### 3) テニスの魅力について

「テニスのどんなところに魅力を感じているか教えてください」という問いに対する回答として、「手軽にできる(51.5%)」が最も多く、次いで「年齢に関係なくプレーできる(24.2%)」、「友達ができる(18.1%)」、「奥が深く頭を使う(15.2%)」、「上品である(12.1%)」などが挙げられた。

#### 4) 活動を続けている理由について

「現在でもテニスを続けている理由を教えてください」という問いに対する回答として、「健康・体力の維持のため(63.6%)」が最も多く、次いで「仲間とのコミュニケーション(42.4%)」と答えた者が多かった。また、「プレーが楽しいから(24.2%)」、「夫婦共通の趣味をもてるから(9.1%)」等が挙げられた。

#### 5) 活動を続けていく秘訣について

「テニス活動を続けていく秘訣がありましたら教えてください」という問いに対する回答として、「仲間とのコミュニケーションを大事にする(42.4%)」が最も多く、次いで「テニスを好きになる、楽しむ(30.3%)」、「自分のレベルに合わせて無理をしない(24.1%)」、「向上心を持つ(12.1%)」等が挙げられた。

#### 6) 続けていてよかったと感じる時

「どんな時に「テニスを続けていてよかった」と感じますか」という問いに対する回答として、「仲間とのコミュニケーション(45.5%)」が最も多く、次いで「健康や体力を維持していると実感する時(33.3%)」が挙げられた。また、「アフターテニスのビール(15.2%)」、「身体を動かす楽しみ(15.2%)」等が挙げられた。

### 5. まとめ

今回の調査から、60歳以上のテニス愛好家においては、主として健康や体力の維持と仲間とのコミュニケーションを目的として活動を継続しており、そのためには仲間とのコミュニケーションを大事にしなければならないと考えていることが明らかになった。すなわち、テニスは個人競技だが、周囲との人間関係を円滑にしていくことが、長年活動を続けていく必要条件であるといえる。

また、「手軽にできる」そして「年齢に関係なくプレーできる」という対象者のテニス観から推察すると、これからスポーツを始めたいという中高年にとって、テニスはその対象種目として適していると考えられる。しかし一方で60歳を過ぎてから始めたとした場合、技術レベル的な問題として、実際に生涯スポーツとなりうるかどうかは疑問である。

千葉市テニス協会ベテラン委員会における現在の問題点は、自前のテニスコートがない、メンバー数が設立当初の2倍に膨れ上がって大所帯になってきた、それに関連してメンバー内での技術レベルの幅が広がってきたことなどが挙げられる。また、極端に女性メンバーが少ないことも気になることである。